

ザロモン室内管弦楽団

団体概要

2013年に設立されたバロックから初期ロマン派までの管絃楽作品をレパートリーとするアマチュア・オーケストラで、通常のオケの半分ほどの規模で活動している。

アンサンブルの良さには定評があり、年一回の定期演奏会を行っている。

活動場所

西東京市近辺

活動日時

9月～2月にかけて月2.3回

会員数

40名

会員要件

相応の技術・音楽経験を有する方

会費

年30,000円（+演奏会費5,000円前後）

お問合せ

岡田 龍之介 042-478-3886

The Salomon Chamber Orchestra

バロックから初期ロマン派まで古楽器のアプローチで生き生きとした音楽の再現を目指す新しい正ダンオーケストラ 2015年創設

2022年 **2.13** [日]

開場 13:30 開演 14:00

会場 保谷こもればいホール

◎ プログラム

シュポーア:「マトローゼ」序曲

ハイドン:交響曲第100番「軍隊」

メンデルスゾーン:「真夏の夜の夢」序曲

本間貞史:音詩「秋に寄せて」-日本の歌による四章-

◎ 入場料 1,500円 全席自由

*コロナ・ウィルスの影響で席数、座席の配置に制限が生ずる場合があります

◎ お問い合わせ info@salomonco.org hiroshi1080@gmail.com (小島)

◎ ご来場の皆様へ感染防止対策のお願い

コロナ感染防止対策としてご来場の皆様にはマスク着用にてお越し頂き、ご来場の際には検温、手洗い、手指消毒(消毒液を受付にご用意致します)など、ご協力をお願い致します。なお発熱・咳・全身痛などの症状がある場合にはご来館をお控え下さい。

ザロモン室内管弦楽団

第8回演奏会

岡田龍之介 指揮

ザロモン
室内管弦楽団

特別出演

森川郁子 ソプラノ



ザロモン室内管弦楽団 The Salomon Chamber Orchestra

今回前半で取り上げるイギリスに関わりのある三作品は、本来であれば前回の演奏会で演奏されるはずであったが、コロナの影響でステージ上での人数制限が課され、見送らざるを得なかった曲目である。

シュポーアは当時英国で人気のあったドイツ出身のヴァイオリニスト、作曲家で、「マトローゼ(船乗り)」は劇の付随音楽として作曲された作品。続くハイドンの交響曲「軍隊」は2度目のイギリス訪問の折に書かれた作品で、多くの打楽器を用いた独特の響きは当時から人気があった。前半最後はメンデルスゾーンが17歳の時にシェークスピアの戯曲の一つに靈感を得て作曲した作品。幻想的な世界が巧みに音楽で描写され、流麗な音楽の美しさと構成の妙は数ある彼の作品中でも特筆に値する。

そして後半は我が作曲の師、本間貞史が今から45年前に作曲した管弦楽曲「秋に寄せて」。これは当時のアマチュア・オーケストラの委嘱で生まれた、よく知られた日本の歌に基づく讀むば編曲作品なのだが、初演以来行方知れずとなっていた自筆総譜が三年前に偶然発見され、教え子の一人である亀山統一氏の尽力でまず電子楽譜の形で、次いでそれを基にしたシンセサイザーによる疑似オーケストラ演奏のCDとして蘇った。私も早速聴かせて頂いたがその音楽的充実ぶりは予想を遙かに上回るもので、西洋古典音楽の構成と技法に通暁した師ならではの、確かな手応えを感じさせるものであった。と同時にこの作品を生のおケストラの音として再現し、多くの方に聴いてもらいたいと言う思いがふつと積み上げ、今回の再演となった。高校生で初めて弟子入りして以来、師の広範な音楽的素養と常に音楽の本質に肉薄しようとする真摯な姿勢に畏敬の念を抱くと共に、人を大事にするヒューマンな人柄に変わらぬ親近感を持ち、気付けば50年もの長きにわたり接してきたが、そんな我が師匠の、豊かで懐の深い音楽世界をご堪能あれ。なお終楽章で登場するソプラノには前回ゲストの森川郁子さんに、再度ご出演をお願いした。

[公式ホームページ] <http://salomonco.org/>

森川郁子 ソプラノ

桐朋学園大学卒業。同大学研究科2年修了。声楽を石井美香、牧川修一、古楽声楽を小林木綿、鈴木美登里、J.フェルドマンの各氏に師事。中世音楽をA.ドゥラフォス氏に学ぶ。2015年、東京・春・音楽祭「大英博物館展」プレ・コンサート、ヘンデル「セルセ」「アレックスandro」、日伊修好150年記念オペラ「ジャパン・オルフェオ」、ラモー「プラテ」等のバロックオペラ、ラ・フォンテヴェルデ第26回定期演奏会に出演。バロック時代の音楽を中心に、ルネサンスから近現代音楽まで幅広い分野で宗教曲のソリスト、少人数でのアンサンブル歌手として演奏活動を行う。アンサンブル・レニブス、エクス・ノーヴォ、ヴォーカルコンサート東京、カペラッテ、レ・グラス各メンバー。アイゼナハ音楽院声楽講師。



岡田龍之介 指揮

東京生まれ。慶応義塾大学経済学部、東京藝術大学楽理科卒業。1986年同大学院修了。音楽学を角倉一朝、チェンバロを有田千代子、渡邊順生各氏に師事。1983年J.J.ルソーのオペラ「村の古い師」(原語による本邦初演)でデビュー



以来、数多くの演奏会に出演。国内外のバロック奏者とのアンサンブルで培った通奏低音には定評があり、近年はソロ、教育活動にも力を入れると共に、各種講演会、執筆活動を通じてバロック音楽の普及にも積極的に取り組む。これまでにアリオン・レクチャーコンサート、栃木「蔵の街」音楽祭、目白バ・ロック音楽祭、北とびあ国際音楽祭、ソウル国際古楽祭、みなと・よこはまバロックシリーズ、旭川雪の美術館古楽コンサート、金沢史跡コンサート、NHK-FMなどに出演。第13回及び23回山梨古楽コンクールではチェンバロ部門の審査員を務める。またほぼ毎年訪れる韓国や、ドイツ公演など海外でも演奏を行なう。2003年にリリースされたソロCD「銀色の響き」(レコード芸術誌準特選)をはじめこれまでに11枚のCDがある。古楽アンサンブル「ムジカ・レセルヴァータ」主宰。FM鴻巣「クラシックの散歩道」メインパーソナリティ、2017年まで31回続いた都留音楽祭の講師を務め、現在、洗足学園音楽大学講師、日本チェンバロ協会会長。一昨年夏、新潟のプロ奏者から成る小オーケストラArs Novaを初指揮、今春「モーツァルト2大ピアノ協奏曲」演奏会にて再度共演、好評を博す。



◎保谷こもればいホール アクセス

- 西武池袋線保谷駅より徒歩(所要時間約15分)
- 保谷駅南口バスターミナルよりバスで保谷庁舎下車(所要時間約5分)
- ①番乗り場 三鷹駅[鷹21]・田無駅行き[田41]
- ②番乗り場 吉祥寺駅行き[吉63]はなバス乗り場 東伏見駅・保谷庁舎行き※系統[吉66]の吉祥寺駅行きバスは保谷庁舎を通りません。
- 西武池袋線東武東上線から 保谷駅南口行きバス[田41]で保谷庁舎下車(所要時間約15分)
- 西武池袋線東武東上線から はなバス第2ルートで保谷庁舎下車(所要時間約10分)
- JR 吉祥寺駅・三鷹駅より保谷駅南口行きバス[吉63][鷹21]で保谷庁舎下車(所要時間約30分)

※専用駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください